

二〇二二年度

沖縄大学 一般選抜（中期）

# 「国語」

・ 経法商学部 経法商学科

・ 人文学部 国際コミュニケーション学科

福祉文化学科

こども文化学科

・ 健康栄養学部 管理栄養学科

国語

※答はすべて解答用紙に書きなさい。

【問題】 つぎの文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

戦後しばらくのところ、アメリカで対潜水艦兵器の開発に力を入れていた。それには、まず、潜水艦の機関音をとらえる優秀な音波探知器をつくる必要があった。

そういう探知器をつくろうとしていると、潜水艦から出ているのではない音がきこえる。しかも、それが規則的な音響である。この音源はいつたいなにか、ということになって、調べてみると、これが何と、イルカの交信であった。

それまでイルカの「ことば」についてはほとんど何もわかっていなかったのに、これがきっかけになって、一挙に注目をあつめる研究課題としておどり出た。

もともとは、兵器の開発が目標だったはずである。それが思いもかけない偶然から、まったく別の新しい発見が導かれることになった。こういう例は、研究の上では、古くから、決して珍しくない。

科学者の間では、(1) こういう a 行きがけの駄賃のようにして生れる発見、発明のことを、セレンディピティと呼んでいる。 ことにアメリカでは、日常会話にも【 A 】出るほどになっている。自然科学の世界はともかく、わが国の知識人の間でさえ、セレンディピティということはきくことがすくないのは、一般に創造的思考への関心が充分でないことを物語っているのかもしれない。遠くにいる潜水艦の機関音をキャッチしようという研究から、イルカの交信音をとらえたのが、とくにすぐれたセレンディピティだというわけではないし、①特筆すべきほど目立った例でもない。ただ、ここではひとつの例としてあげたまでである。発見、発明において、セレンディピティによるものはおびたしい。

【 B 】 このセレンディピティということばの②由来が、ちょっと変わっている。

十八世紀のイギリスに、「セイロンの三王子」という童話が③流布していた。この三王子は、よくものをなくして、さがしものをするのだが、ねらうものはいつこうにさがし出さないのに、まったく予期していないものを掘り出す名人だった、というのである。

この童話をもとにして、文人で政治家のホレス・ウォルポールという人が、セレンディピティ (serendipity) という語を新しく造った。人造語である。

そのころ、セイロン(いまのスリランカ)はセレンディップと言われていた。セレンディピティというのは、セイロン性といったほどの意味になる。以後、目的としていなかった副次的に得られる研究成果がひろくこの語で呼ばれることになった。

大げさな発見などではないけれども、セレンディピティ的現象は、日常の生活でもときどき経験する。

机の上が混乱して、いろいろなものが、さがしてもなかなか見つからなくなっているようなとき、返事をしなくてはならなかった手紙のことを思い出す。その手紙が見当らないから、あちらこちらひっくりかえしてさがすが、出てこない。【 C 】 先日、やはり、さがして、どうしても見つから

らず、なくしてしまっただかと思っていた万年筆がひよっこり出てくる。前によくさがしたはずなのに、なぜか目に入らなかったたのである。それが、さがしてもいまいるときに、出てくる。これも、セレンディピティの一種である。

もうすこし心理的なセレンディピティもよく経験する。

学生なら、明日は試験という日の夜、さあ、準備の勉強をしなくてはと机に向う。すると、何でも無い本が目に入る。手がのびる。開いて読み始めると、これが思いのほかおもしろい。ほんの気まぐれに開いた本である。もちろん読みふけったりしようという気持などまったくなくないのに、なかなかやめられない。

その本というのが、ふだんは見向きもしない堅苦しい哲学書だったりするから不思議である。ほんのちよつと思つてのぞいた本に④ミイられて、二十分、三十分と読みふけり、⑤一夜漬の計画が大きく狂う。これに類する経験が一度もなかった、という学生生活はすくないのではないかとさえ思われる。

こういうことがきっかけになって、新しい関心の芽が出る場合もある。それならりっぱにセレンディピティである。

アナロジーという思考法も、セレンディピティとの関係で考えなおすことができる。

ことばの非連続の連続を考えていて、ものごとには、⑥カンセイの法則がはたらいているという問題に目をひられる。それによって、目指す問題を解こうとするのは、変形したセレンディピティであるとしてよい。

⑦比喩とか、たとえ、というのも、対象そのものの⑧キュウメイをひとまずおいて、まったく違うものの関係を発見し、類推を成立させる。

中心的関心よりも、むしろ、周辺の関心の方が活発に働くのではないかと考えさせるのが、セレンディピティ現象である。視野の中央部にあることは、もつともよく見えるはずである。

【 D ⑨皮肉にも、見えているはずなのに、見えていないことがすくなくない。

考えごとをしていて、テーマができて、いちずに考えつめるのは⑩賢明でない。しばらく寝させ、あたためる必要がある。これも、対象を正視しつづけることが思考の自由な働きをさまたげることが心得た人たちの思い付いた⑪チエであったに違いない。

視野の中心にありながら、見えないことがあるのに、それほどよく見えるとはかぎらない周辺部のものがかえって目をひく。そこで、中心部にあるテーマの解決が得られないのに、周辺部に横たわっている、予期しなかった問題が向うから飛び込んでくる。

寝させるのは、中心部においてはまずいことを、しばらくほとぼりをさませるために、周辺部へ移してやる意味をもっている。そうすることによって、目的の課題を、セレンディピティをおこしやすいくンテキストで包むようになる。(2)人間は意志の力だけですべてをなしとげるのは難しい。無意識の作用に負う部分があるときはきわめて重要である。セレンディピティは、われわれにそれを教えてくれる。

昔の学生が訪ねてきて、脱線の話が実におもしろかったと言う。教師としては複雑な気持になる。かんじんな授業の方はどうなっていたのか。脱線だけしかおもしろいことがなかったように言われては人聞きも悪い。いったい、どういうクラスにいたのか、とたずねてみると、使ったテキストすらはつきりしないのである。それでいて、脱線して話したことは、あざやかに覚えているのである。

【 E 】【学生というものは、授業、講義のねらいとするところには興味をもっていない。年がたてば忘れてしまうのは当然。ひよつとすると、はじめから、そもそも、頭に入っていないのかもしれない。それに比べて脱線には義務感ともなわれない。本来は周辺のなどころの話である。それが⑫インシヨウ的でいつまでも忘れられないというのは、教育におけるセレンディビティである。教室は脱線を⑬ハじるには及ばない。

それは学生のことだが、教師にとっても、脱線した話をしているうちに、それまで、一度も考え及ばなかった問題が、ひよつこり飛び出てきて、あわてて、話を停止して、ノートのはしに心覚えを書きつけるということもある。脱線がいつもそうかどうかというのではないが、ときにはセレンディビティをもたらしてくれる。

教師も脱線を⑭エンリヨするには及ばないのである。われわれは、そういう気軽な話のうちに多くのことを自からも学び、まわりのものにも刺激を与える。

(外山滋比古『思考の整理学』一九八六年、筑摩書房。ただし、一部改変した。)

問一 傍線部①から⑭の漢字にはひらがなで読みをつけ、カタカナは漢字に直しなさい。

問二 【 A 】【 から 】【 E 】【 にあてはまるものを次のなかから選んで入れなさい。

【 ところで 】【 だいたい 】【 すると 】【 ところが 】【 しばしば 】【

問三 a「行き掛けの駄賃」の意味として適切なものを次のア～エから一つ選んで記号で答えなさい。

ア ある事のついでに他のことをして利益を得ること。

イ ふとした偶然から利益を得ること。

ウ さまざまな試みの末に利益を得ること。

エ 艱難辛苦を乗り越えて利益を得ること。

問四 (1)「こういう行きがけの駄賃のようにして生れる発見 発明のことを、セレンディビティと呼んでいる」とあるが、「セレンディビティ」の定義としてふさわしい部分を、文章中から二か所それぞれ三〇字以内で抜き出しなさい。

問五 (2)「人間は意志の力だけですべてをなしとげるのは難しい。無意識の作用に負う部分があるときにはきわめて重要である」とあるが、そのことについて、文章中の言葉を用いて八十字程度で説明しなさい。

問六 この文章についてのあなたの意見や感想を二〇〇字程度で書きなさい。そのさい、「セレンディビティ」、「創造的思考」の二語を用いること。